地質ニュース653号，68－69頁，2009年1月
Chishitsu News no.653, p.68－69, January, 2009

相模原市立博物館での「地質の日」の取り組み

河　尻　清　和[1)]

1. はじめに

相模原（さがみはら）市立博物館では「地質の日」の関連行事として，新市域紹介コーナー「地質図に見る津久井地域の地質」および地質学講座「地質図入門～相模野台地編～」を開催した．以下にその概要を報告する．

神奈川県相模原市は，2006年3月20日に津久井町・相模湖町と，2007年3月11日に城山町・藤野町と合併した．当館では新市域（津久井地域）の内容も盛り込んだ常設展示室の改修計画を進めているが，改修が完成するまでの間，新市域を紹介するために，常設展示室内に新市域紹介コーナーを設けている．このコーナーでは，2箇所に移動展示ケース（幅1,800×奥行き1,100×高さ2,700mm）を設置し，自然系・人文系の内容に分けながら期間を区切って津久井地域に関するさまざまなテーマを取り上げて展示している．

なお，当館の地質分野の教育普及活動はボランティアの協力を得て開催しており，今年度の「地質の日」の関連行事も，展示の準備，講座の下見や当日の補助を含めて，地質分野のボランティアの協力を得て実施した．

写真1　新市域紹介コーナー「地質図に見る津久井地域の地質」の展示．

2. 新市域紹介コーナー「地質図に見る津久井地域の地質」

「地質図に見る津久井地域の地質」は，新市域紹介コーナーの自然系展示として，2008年3月22日（土）～7月13日（日）の期間，2つの展示ケースを使用して開催した．1つ目のケースでは，日本列島全体や関東地方など広い範囲の地質図を展示し，日本列島を構成している大きな地質構造の枠組みの中で，津久井地域の占める位置を紹介した．展示資料は，地質調査所発行の「500万分の1日本地質図」，「50万分の1活構造図8「東京」（第2版）」および「20万分の1地質図「東京」」である．2つ目のケースには，2.5～5万分の1の縮尺の地質図を展示し，津久井地域の地質がどのように表現されているのかを紹介した．展示資料としては，「相模平野北部周辺環境地質図」，「丹沢・大山地域の新第三系地質図」，「神奈川県地質図「八王子」」および「神奈川県地質図「上野原（うえのはら）」」である．このうち「相模平野北部周辺環境地質図」は地質調査所発行，残りは神奈川県発行である．2つ目のケースには，地質図だけでなく四万十帯の砕屑岩や丹沢層群の凝灰岩類の実物もあわせて展示した（写真1）．

3. 地質学講座「地質図入門～相模野台地編～」

5月10日，17日，24日，31日（土曜日の午後2～4時）に地質学講座「地質図入門～相模野台地編～」を開催した．今回の参加者は約20人であった．

1回目（5月10日）は館内においてガイダンスと地質調査の基礎に関する学習を行った．

2回目（5月17日）で訪れた道保川公園は関東ローム層と段丘礫層の露頭が共に良好に観察できる地域である．参加者には事前に相模原市発行の地形図を配布し，その上に観察された地層をプロットする実習を行った．しかし，地形図の読図に不慣れな参加者も

1）相模原市立博物館
229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-15

キーワード：相模原市立博物館，地質の日，教育普及，展示，講座，ボランティア

写真2　地質学講座2回目．段丘礫の露頭の前で解説を聞く参加者．

写真3　地質学講座4回目．意見を交換しながら地質図を作成する参加者．

多く，正確な位置にプロットできない可能性もあったので，参加者全員を同ルートで案内し，ポイントとなる露頭で解説をしながら作業を行った(写真2)．

3回目(5月24日)は，相模原市内の段丘崖で広く観察され，特徴的で識別しやすい相模野第1スコリア(S1S)を鍵層として追跡した．これも，2回目と同様，参加者全員が同じルートを歩き，配布した地形図上にS1Sが見られた地点を書き込んでいった．

最終日の4回目(5月31日)の室内作業では，鍵層をつなげる作業は参加者全員が完成できた．しかし，地質図の作成作業は難しかったようだった．この為，地質図を最後まで完成させた参加者は少なかった(写真3)．特に，層理面と等高線の交わりについて理解することが困難だったようである．

今回の講座の目的は，地質図を完成させることではなく，地質図の作成過程を参加者に理解してもらうことにあった．今回の講座を通して，地質調査から地質図の作成に至るまでのプロセスが理解してもらえたようである．

4. まとめ

「地質図に見る津久井地域の地質」展示に関してはスペースの割に多くの資料を並べてしまったため，解説が少なく，やや説明不足になってしまった感が否めない．今後，同様の展示をする際には，展示資料をもっと絞って，見せ方や解説を工夫する必要があるだろう．ただし，発行されている地質図の実物を展示する機会は今までなく，発行されている地質図の存在を一般の人に知ってもらうのには大変良い機会であった．展示期間中も，入手方法等の問合せがあり，地質図を展示した意義は十分にあった．

一方，地質学講座に関しては，当初の目的は概ね達成されたと考えられる．しかし，当館の地質学講座は以前より毎年開催しており，参加者の多くは地質学に興味のある方たちばかりで，常連の参加者も多い．したがって，新たな“地質学ファン”の拡大につながったかどうかは多少疑問が残る．不特定多数の人が参加できるような単発的な行事の方が，地質学の普及という点ではより効果的であったかもしれない．この点に関しては，来年度以降の課題としたい．

今回のように，ボランティアの協力を得ることで，きめ細かな参加者への対応が可能となる．また，それと同時に，ボランティアの知識向上にもつながるので，今後もボランティアとともに行事を開催していくつもりである．

今年度の「地質の日」に関する相模原市立博物館の取り組みは，新たに事業を興したものではなく，既存の事業に「地質の日関連事業」の冠をつけただけのものであった．「地質の日」をきっかけとして，地質学の普及を図るためには，“毎年，5月10日の「地質の日」に博物館に行けば，何かをやっている！”と一般市民に認識してもらう必要があり，そして，その継続が最も大切である．そのためには，各館の負担が大き過ぎず，無理なく続けられる内容で始めるのが最善であろう．例え，どんな小さな企画でも構わないので，「継続は力なり」という気持ちで毎年続けていく努力が重要ではないだろうか．

KAWAJIRI Kiyokazu (2009)：The "Geology Day" events at Sagamihara City Museum.

＜受付：2008年11月4日＞